

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 930円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

3月議会

国保税引上げ・街づくり・教育問題

また一般会計から全額を繰り入れるべきだとして、1億9千万円繰



日本共産党市議団は検討した結果、昨年来からの光熱費と諸物価の異常な高騰により生活がひっ迫している今日、増税は認められないとして、一人当たり約7500円増となる引上げ議案に反対しました。

健康保険予算になります。必要金額は3億7千121万円です。市は一般会計から必要金額の51・1%の約1億9千万円を繰り入れる一方、残りは加入者の保険税引き上げの提示をしました。

今議会の焦点は、国民健康保険予算になり、必要金額は3億7千121万円です。市は一般会計から必要金額の51・1%の約1億9千万円を繰り入れる一方、残りは加入者の保険税引き上げの提示をしました。

国民健康保険税の引き上げ



野村 貞夫

岩井康議員は「これから我孫子市について」と



シティア前の桜

市の長期ビジョンとすべし街づくりは遅々として進んでいません。

「4期16年で培った経験と育んできた人とのつながりを活かしながら、人口減少や少子高齢化、公共施設の老朽化などの課題に的確に対応し、市政運営に全力で取り組んでいきます」と表明しましたが、今後4年間において、目新しいものはなく、

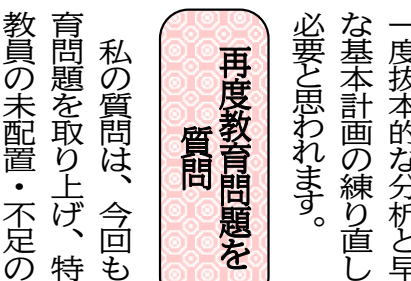
野市長の来年度の施政方針が注目されました。

市の街づくり基本計画の練り直しを

次に、1月の市長選挙で無投票当選となった星野市長の来年度の施政方針が注目されました。

り入れの予算案にも反対しました。採決ではわが党以外は原案に賛成し、可決しました。

岩井康議員は「これから我孫子市について」と



手賀沼の水辺

しかし我孫子市の西と東では、あらゆる点で地域格差が生じており、今一度抜本的な分析と早急な基本計画の練り直しが必要と思われる。

において、手賀沼をコンセプトにして実現できるように進めてきた。また市長が選挙で掲げた「コンパクトシティ」を指すことについては、すでに(拠点)できているとの答弁でした。



手賀沼の水辺

柄ですが、市と今後の方策を共に考えようと、尋ねました。

再度教育問題を質問

私の質問は、今回も教育問題を取り上げ、特に教員の未配置・不足の是正、働き方改革、不登校の減少策等を質しました。本来県と国が負うべき事

また教員の残業時間が100時間を大きく超える勤務状態では過労による病欠や、教員になる人も減少するとの市民からの声を代弁し訴えました。現場での早急な改善が求められます。

最後に、市長にも市の教育方針に沿って、より

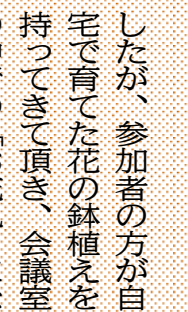
最後に、市長にも市の教育方針に沿って、より

市政を語る会報告

3月26日、我孫子南地域後援会主催の市政を語る会がアピスタ会議室で開催され、野村議員から3月市議会の報告がありました。

一層子どもたちに寄り添った教育行政をお願いして私の質問を締めくくりました。

したが、参加者の方が自宅で育てた花の鉢植えを持ってきて頂き、会議室の中で「お花見」になりました。



終了後に予定していた手賀沼公園の花見は悪天候のため中止になりました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

孫子市が国や県に任せきりである印象を受けました。

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。スマホのQRコードはこちらから。→



もはや正気ではない。原発のプールにある使用済み核燃料にミサイルが当たったらどうなる？

▼ウクライナ侵攻直後の昨年3月、原子力規制委員会の委員長だった更田氏が会見で「武力攻撃に対して堅牢性を持つ施設」という議論は、計画もしていないし事実上無理だ」と言った▼現在の山中委員長も同じ見解だ。使用後の燃料は相当の期間、プールで冷やす必要があり、貯蔵プールでの保管は避けられない。脆弱なプールに貯蔵される使用済み核燃料は増え続けるが政府は無視している▼すでに貯蔵している量は約2万トン▼岸田政権は地震、事故やテロといった大きなリスクに目をつむり有効な対応を打たずにいる▼政府は「核燃料サイクル」を掲げるが、青森県六ヶ所村の再処理工場は完成の見込みもなく延期され続けている▼そんな中、岸田政権は原発の60年超運転や新設容認に舵を切った。福島で原発事故が起き、ウクライナ侵攻で原発稼働に大きなリスクがあることが明らかになっている▼原発や貯蔵プールが標的になる恐怖は容易に想像できる。にも拘わらず、備えの議論すらしない。無為無策の岸田内閣は退陣しかない。

もはや正気ではない。原発のプールにある使用済み核燃料にミサイルが当たったらどうなる？

▼ウクライナ侵攻直後の昨年3月、原子力規制委員会の委員長だった更田氏が会見で「武力攻撃に対して堅牢性を持つ施設」という議論は、計画もしていないし事実上無理だ」と言った▼現在の山中委員長も同じ見解だ。使用後の燃料は相当の期間、プールで冷やす必要があり、貯蔵プールでの保管は避けられない。脆弱なプールに貯蔵される使用済み核燃料は増え続けるが政府は無視している▼すでに貯蔵している量は約2万トン▼岸田政権は地震、事故やテロといった大きなリスクに目をつむり有効な対応を打たずにいる▼政府は「核燃料サイクル」を掲げるが、青森県六ヶ所村の再処理工場は完成の見込みもなく延期され続けている▼そんな中、岸田政権は原発の60年超運転や新設容認に舵を切った。福島で原発事故が起き、ウクライナ侵攻で原発稼働に大きなリスクがあることが明らかになっている▼原発や貯蔵プールが標的になる恐怖は容易に想像できる。にも拘わらず、備えの議論すらしない。無為無策の岸田内閣は退陣しかない。

もはや正気ではない。原発のプールにある使用済み核燃料にミサイルが当たったらどうなる？

▼ウクライナ侵攻直後の昨年3月、原子力規制委員会の委員長だった更田氏が会見で「武力攻撃に対して堅牢性を持つ施設」という議論は、計画もしていないし事実上無理だ」と言った▼現在の山中委員長も同じ見解だ。使用後の燃料は相当の期間、プールで冷やす必要があり、貯蔵プールでの保管は避けられない。脆弱なプールに貯蔵される使用済み核燃料は増え続けるが政府は無視している▼すでに貯蔵している量は約2万トン▼岸田政権は地震、事故やテロといった大きなリスクに目をつむり有効な対応を打たずにいる▼政府は「核燃料サイクル」を掲げるが、青森県六ヶ所村の再処理工場は完成の見込みもなく延期され続けている▼そんな中、岸田政権は原発の60年超運転や新設容認に舵を切った。福島で原発事故が起き、ウクライナ侵攻で原発稼働に大きなリスクがあることが明らかになっている▼原発や貯蔵プールが標的になる恐怖は容易に想像できる。にも拘わらず、備えの議論すらしない。無為無策の岸田内閣は退陣しかない。

もはや正気ではない。原発のプールにある使用済み核燃料にミサイルが当たったらどうなる？

▼ウクライナ侵攻直後の昨年3月、原子力規制委員会の委員長だった更田氏が会見で「武力攻撃に対して堅牢性を持つ施設」という議論は、計画もしていないし事実上無理だ」と言った▼現在の山中委員長も同じ見解だ。使用後の燃料は相当の期間、プールで冷やす必要があり、貯蔵プールでの保管は避けられない。脆弱なプールに貯蔵される使用済み核燃料は増え続けるが政府は無視している▼すでに貯蔵している量は約2万トン▼岸田政権は地震、事故やテロといった大きなリスクに目をつむり有効な対応を打たずにいる▼政府は「核燃料サイクル」を掲げるが、青森県六ヶ所村の再処理工場は完成の見込みもなく延期され続けている▼そんな中、岸田政権は原発の60年超運転や新設容認に舵を切った。福島で原発事故が起き、ウクライナ侵攻で原発稼働に大きなリスクがあることが明らかになっている▼原発や貯蔵プールが標的になる恐怖は容易に想像できる。にも拘わらず、備えの議論すらしない。無為無策の岸田内閣は退陣しかない。

もはや正気ではない。原発のプールにある使用済み核燃料にミサイルが当たったらどうなる？



(緑 竹内)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

(台田 K)

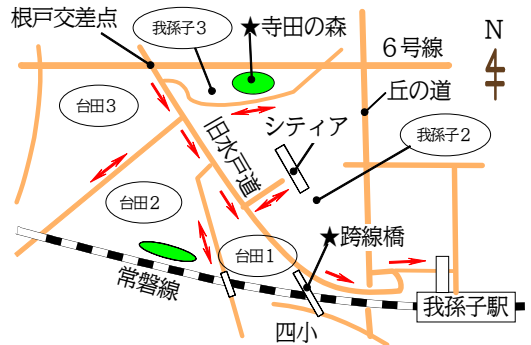
我孫子古道巡り

2061 北柏から我孫子へ

続編

年代からの宅地化で、かろうじて残った林は平成13年に市の保存緑地に指定されました。

も3分咲きでした。



寺田の森

街道に戻るとマンションが目立ち、危険な「狭い通学路」が続きます。野村議員が歩道の早期拡張を議会ですべて訴えています。



旧水戸道の景色

常磐線あれこれ 27

1982年(昭和57年)

9月。常磐緩行線(各駅停車)103系1000番台の取替用として、アルミ車体、電力回生ブレーキ付電機子チョップパ制御を採用した203系電車の量産先行車が登場しました。

1979年、国鉄として初の電力回生ブレーキ付電機子チョップパ制御を装備した「省エネ電車」ともいえる201系が登場しました。

「春の花」

若松・高橋祥子

当時、国鉄通勤形の主力車両であった103系の一



203系電車

201系は制御方式のみならず内外装に新機能を採用した車両で、103系に代わる次世代通勤形電車として、1981年から中央線快速用に量産が開始され



201系電車

ました。

この201系の派生車両として、同じ新機能を採用して地下鉄千代田線乗り入れ用車両に新製したのが203系でした。ただ103系と異なり、201系1000番台に仕上がったのは、アルミ製車体(201系は鋼製車体)、現在では当たり前になっているドアの戸袋窓の廃止、上半部及び裾部に傾斜が付いたそれまでに採用例のない正面デザインなど、201系にない機能を採用したからかもしれません。

203系は1984年から量産が開始され、1986年までの間に、全ての常磐緩行線(各駅停車)の103系1000番台を取り替えました。(次号へ続く) (緑 竹内)



保全されていましたが、30



寺田の森に続く小道

今回は、旧水戸道を根戸交差点から我孫子駅まで巡ります。根戸交差点は国道356号の起点となります。交差点を超えてすぐ東側の小道を入ると歴史が止まったような昔ながらの景色が

戻り街道を南に進みます。「台田」のバス停を西に入ると台田2丁目と3丁目の境界の道です。真つすな道で、途中にあびバスの「台田2丁目」のバス停があります。この道は現・船戸3丁目まで続いていたようです。



跨線橋

戻り「コンビニしいな」のバス停を西に入り台田1丁目と2丁目の境界の道を南に進みます。2丁目側には広大な緑地がありました。最近宅地化され常磐線沿いに緑地が残るのみとなりました。

足を進めると「跨線橋」が見えてきます。昔は四小前まで旧水戸道が続き、常磐線が開通すると踏切となりました。356号はループして丘の道に合流します。東に入り「変電所」を過ぎると我孫子駅に到着です。

(栄 関口)

すが昔は根戸の一部でした。昭和20年代まで台地の林は

歴史「我孫子のいろいろ八景歩き」